自　然　観　察　　年　　月　　日発行　第　　号　　年　回発行

自然観察

No.83
2007
6月

北海道自然観察協議会

ロゴマークをクリックすると当会のホームページへリンクします

目　　次

- 2007年度総会終わる　2006年度決算報告及び監査報告 …… 2
- 2007年度予算 …… 3
- 会計からのお願い …… 3
- 北海道自然観察協議会会則 …… 4
- 2007年講演会講演要約　「猛禽を守る最前線レポート」 …… 5
- 第18回滝野の自然に親しむ集いのお知らせ …… 7
- シリーズ 自然環境と廃棄物 第4回 ビワの実に思う …… 8
- 2006年度全道研修会Ⅱ報告　ガンカモティーチャーズガイド講習会 …… 9
- フィールドニュース　手稲区　旭川市 …… 10
- ウォッチングレポート …… 12
- 参加者の声 …… 14
- ウォッチングプラン …… 15
- 事務局だより …… 16
- 緊急連絡先他 …… 16
- 自然観察指導員講習会について …… 16

ネムロブシダマ

２００７年度総会終わる

2007年度北海道自然観察協議会総会は4月14日(土)に札幌市環境プラザ研修室で開催されました。総会では新年度の事業計画・予算の決定、会則の一部改定が決議されました。引き続いて講演会が行われました。講師は猛禽類医学研究所(獣医療研究機関)代表・獣医師　藤慶輔氏、演題は「猛禽を守る　最前線レポート　　猛禽類保護の保全医学的取り組み　」でした。
年度末で確定した決算報告・監査報告、2007年度予算、改定された会則を掲載します。
2006年度事業報告、2007年度事業計画については、会報82号をご参照ください。

２００６年度決算報告及び監査報告

2006年度決算報告

収入の部　　単位(円)

項目	予算額	決算額	増(+)減(-)	摘要
前年度繰越	1,396,922	1,396,922	0	
会費	540,000	511,400	-28,600	会員400名(新会員28名)
雑収入	0	1,045	1,045	利子
観察会参加料	90,000	83,381	-6,619	観察会保険料・資料代
合計	2,026,922	1,992,748	-34,174	

支出の部　　単位(円)

項目		予算額	決算額	増(+)減(-)	摘要
事務費	通信費	60,000	84,400	24,400	切手代　はがき　郵送費
	消耗品費	30,000	32,650	2,650	用紙　インクトナー　　印刷代
	会議費	15,000	26,430	11,430	理事会　部会　会則検討委員会
	小計	105,000	143,480	38,480	
会報費	会報郵送費	200,000	152,690	-47,310	会報79・80・81･82号(クロネコメール便)
	印刷代	150,000	204,987	54,987	印刷会社へ支払い
	ラベル代	4,000	3,675	-325	会報郵送用ラベル
	封筒印刷代	36,000	34,965	-1,035	封筒（角２、角３）
	原稿謝礼代	0	0	0	
	通信費	15,000	17,010	2,010	編集部関係の通信費
	消耗品費	10,000	2,088	-7,912	セロテープ　プリンターインク　用紙
	会場費	0	0	0	
	小計	415,000	415,415	415	
活動費	観察会費	90,000	50,803	-39,197	参加者保険、配布資料、通信費
	総会開催費	16,000	24,800	8,800	会場使用料　講師謝礼
	30周年積立	200,000	200,000	0	
	全道研修費	50,000	83,143	33,143	機器使用料　プリンターインク　講師研修会費
	地方研修費	50,000	15,630	-34,370	講師謝礼　会場使用料
	旅費補助	23,000	1,620	-21,380	
	救命救急講習会	8,000	15,200	7,200	講師派遣費　講師駐車代
	用具費	30,000	1,890	-28,110	
	雑費	10,000	6,780	-3,220	森と自然をを守る会　盗掘防止ネットワーク
	小計	477,000	399,866	-77,134	
予備費		1,029,922	0	-1,029,922	
総計		2,026,922	958,761	-1,068,161	

収支残高

総収入　1,992,748円　－　総支出　958,761円 ＝　1,033,987円（2007年度へ繰り越）

30周年特別会計

2005年度繰越金	60,000円
2006年度積立金	200,000円
2007年度繰越金	260,000円

2007年4月14日　以上の通り決算報告いたします。
会計　畑中 嘉輔　　会計　引地 輝代子

2007年4月14日　上記に関する監査を実施し、適正であることを認めます。
監事　伊達 佐重　　監事　荻田 雄輔

２００７年度予算

収入の部　　単位(円)

項目	決算額	予算額	増(+)減(-)	摘要
前年度繰越	1,396,922	1,033,987	-362,935	
会費	511,400	490,000	-21,400	会員400名
雑収入	1,045	0	-1,045	
観察会参加料	83,381	90,000	6,619	観察会保険料・資料代
合計	1,992,748	1,613,987	-378,761	

支出の部　　単位(円)

項目		決算額	予算額	増(+)減(-)	摘要
事務費	通信費	84,400	85,000	600	切手代　はがき　郵送費
	消耗品費	32,650	30,000	-2,650	用紙　インクトナー　印刷代
	会議費	26,430	50,000	23,570	理事会・部会会場費
	小計	143,480	165,000	21,520	
会報費	会報郵送費	152,690	160,000	7,310	会報4回発行(クロネコメール便)
	印刷代	204,987	210,000	5,013	印刷会社へ支払い
	ラベル代	3,675	4,000	325	
	封筒印刷代	34,965	35,000	35	
	原稿謝礼代	0	0	0	
	通信費	17,010	18,000	990	編集部関係の通信費
	消耗品費	2,088	5,000	2,912	セロテープ　プリンターインク　用紙
	会場費	0	0	0	
	小計	415,415	432,000	16,585	
活動費	観察会費	50,803	90,000	39,197	参加者保険、配布資料、通信費
	総会開催費	24,800	25,000	200	会場使用料　講師謝礼
	30周年積立	200,000	200,000	0	
	全道研修費	83,143	50,000	-33,143	講師謝礼　会場使用料　資料代
	地方研修費	15,630	50,000	34,370	講師謝礼　会場使用料　資料代
	指導員講習会費	1,620	10,000	8,380	旅費補助を項目変更
	救命救急講習会	15,200	18,000	2,800	講師派遣費　講師駐車代
	用具費	1,890	20,000	18,110	
	雑費	6,780	10,000	3,220	森と自然をを守る会　盗掘防止ネットワーク
	小計	399,866	473,000	73,134	
予備費		0	543,987	543,987	
総計		958,761	1,613,987	655,226	

2007年度収支残高

総収入　1,613,987円　－　総支出 1,613,987円　＝　0円

30周年特別会計

2006年度繰越金	260,000円
2007年度積立金	200,000円
	460,000円

会計からのお願い

会費の納入はお早めに

☆ 会費は年度単位です。今年度　平成19年度)の会費を未納の方はお早めにお願いいたします。

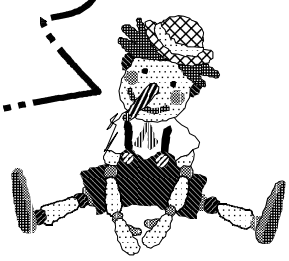
・ 通信欄は住所変更等の近況報告にお使い下さい。

・ 差し支えなければメールアドレスを記入願います。

☆ 退会のお申し出があるまでは北海道自然観察協議会の会員です。届が出されるまで会費のお支払いをしていただきます。

☆ 郵便振替口座　02710-1-8768　北海道自然観察協議会

会計　畑中 嘉輔



北 海 道 自 然 観 察 協 議 会 会 則

第 1 条　名　称

この会は北海道自然観察協議会と称する。

第 2 条　目　的

自然をとうとび、自然に学ぶ我々は、自然観察会活動をとおして多くの人々と自然について語り、自然に親しみながら、自然と調和する方法を探求し、このかけがえのない自然をより良い姿で子孫に残そうとするものである。

第 3 条　事　業

この会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

1.自然観察会等の育成指導
2.会員の資質の向上を図るための研修会等の開催
3.会員の親睦と団結を図り、地域の自然保護思想を啓発するための行事の開催
4.会員相互の連絡と情報交換、研究資料等の発表のための会報の発行
5.その他、この会の目的達成のための事業並びに事業協力

第 4 条　会　員

この会の会員は、(財)日本自然保護協会が認定した自然観察指導員をもって構成する。

第 5 条　組　織

1.会の運営のため、事務局をおき、総務、広報、会計をおく。
2.会の事業遂行のため、観察部、研修部、編集部をおく。

第 6 条　役　員

1.この会に次の役員をおく。
(1) 理事　　30名以内　会の運営、事業の執行等について審議し、議決に基づき実行する。
(2) 監事　　2名　　会の運営及び会計を監査する。
2.理事および監事は総会において選出する。
3.役員の任期は2年とし、再任は妨げない。

第 7 条　役員の職務

1.この会の役員の職務は次の通りとする。
(1) 会長　　1名　会を代表する。
(2) 副会長　　若干名　会長を補佐し、会長に事故ある時は会長職務を代行する。
(3) 事務局長　　1名　会の事務一般をまとめる。
(4) 部長　　3名　各部に関する業務を行う。
(5) 総務　　若干名　対外折衝等に関する業務を行う。
(6) 広報　　若干名　事業に関する広報を行う。
(7) 会計　　若干名　会計に関する業務を行う。
2.上記の役員は理事の互選により選出する。
3.上記職務の事務所はそれぞれの役員宅におく。

第 8 条　会　議

この会の会議は、総会及び理事会とし、会長が招集する。会議の議長は出席者の中から選出する。

1. 総会　　毎年１回開催し、会の運営及び事業の執行等全般について決定する。
2. 理事会　必要に応じて開催し、事業の執行等について審議する。

第 9 条　会　計

1.この会の経費は、会費・寄付金・その他の収入による。
2.この会の会費は、年額1,500円とする。ただし同一世帯に複数の会員がいるときは、2人目からは、年額1,000円とする。
3.会計年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。

付　則

この会の会則は、1984年（昭和59年）8月26日から施行する。

一部改正　　1991年8月11日、1994年5月21日、2000年4月15日
2006年4月15日、2007年4月14日

猛禽を守る！最前線レポート
ー猛禽類保護の保全医学的取り組みー

4月14日(土)総会後の講演会の内容を要約しました。齊藤先生に目を通していただいております。　（後藤 言行 記）

講師 齊藤 慶輔氏プロフィル：
猛禽類医学研究所代表。日本獣医畜産大学 野生動物学
平成6年より環境省釧路湿原野生生物保護センターを拠点に絶滅の危機に瀕した希少猛禽類の保全医学的活動を行う。
近年最も力を注いでいる研究テーマは、猛禽類の鉛中毒根絶と環オホーツク圏におけるオオワシの保護。
環境省希少野生動植物種保存推進員、北海道地方環境事務所調査研究員、オオワシ・オジロワシおよびシマフクロウ保護増殖分科会検討委員。
WAWV（世界野生動物獣医師協会）理事、日本野生動物医学会 幹事、ワシ類鉛中毒ネットワーク副代表。
主な著書：生態学からみた野生生物の保護と法律(共著)
（財）日本自然保護協会編 講談社 2003
野生動物救護ハンドブック(共著) 文永堂出版 1996　など

１．猛禽とはどのような鳥か

猛禽類はワシタカ目とフクロウ目に属する大型の鳥類である。翼開長が245cmに達するオオワシ、230cmのオジロワシ、210cmのイヌワシ、165cmのクマタカ、フクロウでは翼開長180cm・体重4.5kgにも達するシマフクロウなどがこの中に入る。ハチクマなどのように蜂の子を好んで食うものもいるが概して小動物・魚などを捕食し、生態系の頂点に位置している。

行動圏は広く、繁殖期は長く、子供は少ない。食物連鎖の頂点に位置するがゆえに、かれらには広大で良質の採餌環境・営巣環境が必要で、そのために生態系の指標とされている。

２．獣医学的立場から見た保全医学とは

保全医学の課題として挙げられることは
① 種の保存……物多様性を守ること、稀少種を守ること
② 個体群の管理……生態系のバランスを管理すること
③ リスクの管理……大量死や否定的な人為的な影響を排除すること
④ 健全な生育環境の保全……ヒトに悪影響を与える疾病への対策
など、法獣医学的な視点や技術が要求される分野である。

３．保全医学的取り組みの概要

シマフクロウを例にとれば、「種の保存法」によって「国内稀少野生動物」、「天然記念物」、「絶滅危惧種ＩＡ類」に指定されているが、日本の自然林の4分の1以上を占めているといわれる北海道であっても環境は良好とはいえず、120羽ほどしか棲息していないと推定されている。営巣には樹木の空洞を利用するが、このためには胸高直径80cm以上の木々が必要で、結局は巣箱を設置しなければならない場合が多い。

雛が孵ると個体記録や健康状態、ＤＮＡの調査を行い、育雛が放棄された場合には飼育も行わなければならない。飼育状態から自然に帰すためには♀では2年、♂では1年をかけ、リハビリゲージでの飛び方の訓練、放鳥ゲージでの2週間の学習などを実施してから放鳥する。このような救護活動はなぜ必要なのかと言えば、絶滅の危機に瀕している猛禽にとっては1羽の死でも重大な意味を持つからである。

治療やリハビリをしていると、いかに人間が原因を作っているのかがよく分かる。

そのほか、罹病している個体を放鳥するか否かの判断であるとか、中空になっている鳥の骨の骨折治療には手術道具の扱いに習熟していることも要求される、とか大変である。

４．猛禽類の疾病・死亡原因の解明と対策の検討

疾病・死亡原因の解明は死体の調査から始まる。自然死もあるが事故死も多い。猛禽類の場合は事故を起こしやすい特徴を備えているからである。例えば

① 獲物を監視するために見晴らしの良い所にとまる……送電塔や電柱など
② 餌が豊富で捕獲が容易な場所を求める……養魚場や公道上
③ 鳥道をもっている……川と道路が交差する橋の上など
④ 上昇気流に乗って帆翔する……上昇気流の発生しやすい高速道路上

などである。

５．個別的・具体的な事例と対策

① 感電死……塔の上に送電線より高い位置に視認性のよい「止まり木」を新たに設置するとか、止まれない構造にするなどの構造改良が有効である。いずれにしてもこれからは送電塔を設置する段階で安全対策をとる必要がある。

感電防止、とまりを防ぐ工作物の試験

風車に切断された猛禽

② 風車への衝突……ゆっくり回っているように見えても直径60mの風車の先端は300km/hで回転している。その羽根が3枚ついているのだから、気流に乗ってゆったりと帆翔し、敏捷な運動が苦手な大型の猛禽にとっては避けることが不可能な恐ろしい相手となる。

胃の内容物の剖検によればほとんどの個体から未消化の餌が発見されている。渡り鳥の要所である風の道は大型猛禽類の採餌場であると同時に風車の好適地でもある。

この問題の解決には「クリーンエネルギー」としての風力発電への期待との調整が必要であるが、自然保護に熱心な人ほど風力発電を積極的に推進する傾向が強く、調整は難しい問題をはらむ。

③ 水中の事故……シマフクロウが対象となるが、水中の拘束物を除去すること、外部からミンクなどが侵入できない脱出用の足場を設置することが有効である。

④ 交通事故……これもシマフクロウに多い事故である。シマフクロウの採餌場である河川と道路の交差する点＝橋の上では、「交通安全」の旗などを欄干に設置することでシマフクロウの飛翔高度を上げることが有効である。路面上での事故は損傷部位が上半身の正面に集中していることから、車の存在に気がついていてもライトに眼がくらんで動けなかったことが原因と推定される。車の接近を聴覚などで知らせる工夫も必要と思われる。また、消化器内容物の剖検からエゾアカガエルの採食との関連が認められるが、エゾアカガエルの道路横断期（越冬地→水辺、水辺→越冬地）は特定できるので対策は絞ることができる。

⑤ Pb中毒……海ワシ（オオワシ、オジロワシ）に多い。スケトウダラの不漁と期を一にして内陸ではエゾシカが増え、北海道は狩猟や駆除を積極的に推進する。その結果ハンターが放置したシカの死体とともに鉛が誤食され、1997年の最初の発見から10年間だけでも100例をこえるPb中毒死が確認されている。この数が氷山の一角であることは当然であるが、より深刻なことは被害個体には繁殖年齢に達した優位の成鳥が多いことである。この理由はシカの死体を真っ先に独占するのは優位の成鳥であり、従って鉛の破片が多く残留している被弾部を真っ先に摂食することになるからである。弾丸の鉛は100%シカの体内に残ることが知られている。繁殖年齢の成鳥一羽の死亡は、単なる「マイナス1」に留まらない。次世代の絶対的減少を意味するからで、この状態が何年か継続すれば確実に個体数の激減を引き起こすからである。

北海道は2000年から「告示」の形で規制を開始し、2004年にはすべての大型獣への鉛弾の使用を禁止しCu弾に変えさせる措置をとったが、生産、販売、購入、所持などの規制がなくザル法である。規制後もPb中毒はなくなっていない。

⑥ 違法行為……密漁の刺し網、トラバサミによる被害もある。

６．国境を越えた対策の必要性

昨年オホーツク沿岸に油まみれの海鳥が多数流れ着いた。それを摂食したオオワシの二次的被害としての油中毒死も報告されている。油の流出源はサハリン東部と考えられている。

サハリンでは石油・天然ガス開発としてサハリンプロジェクト・サハリンⅠ～Ⅸが進行中である。このうちサハリンⅠとⅡの舞台である東北部の沿岸地域は浅い湾や潟湖が多く、オオワシの一大繁殖地となっている。一方、サハリンの地質学的特徴は活断層が多く地震の多発地帯である。パイプラインの敷設工事による自然破壊などの繁殖地への負荷に加えて、地震によるパイプラインの破断は取り返しのつかない甚大な被害を及ぼす。

日本の企業も参加して行われている開発事業である。政府も企業もオオワシの繁殖地の保全にもっと積極的なり、行動を起こす必要がある。

７．終わりに

時には力のシンボルとして崇められるような大型猛禽類であるが、実は我々人間のもたらすさまざまな軋轢の中で脅かされている。生態系の頂点に立つ存在であるがゆえに、それが傍目では些細なものであったとしても環境の変化には重大な影響を受けるのである。

野生生物と共生してゆくために一番大切なことは、我々の一人ひとりが彼らの隣人としての自覚を持って環境を悪化させない努力をすることであろう。環境の悪化は、今は人間にとっては小さなものであっても、いずれ我々の生存自体を左右するようなものとなって自分自身に跳ね返ってくるであろうからである。絶滅の危機に瀕している野生生物やそれを取り巻いている豊かな自然を、人間生活だけを豊かにするための代償にしてはならないのである。

８．感想

総会の日の4月14日は春には珍しく北海道全域で大雪が降った。峠が閉鎖される中で齊藤先生は襟裳経由で駆けつけてくださった。先生は猛禽類の生存を最前線で守る活動を情熱的に語ってくださり、私は猛禽類を守ることはとりもなおさずわれわれ人類自身を守ることにつながるのだと思った。先生のこの情熱は何に裏打ちされているのだろうか。

これは講演のあとの懇親会の席上で知ったことであるが、先生は高校時代に南アルプスのほとんど垂直の壁面でイヌワシに襲われたとのことである。上方にイヌワシが営巣していたらしいのだが、普通の人ならばそのような恐怖の極限の体験からは「猛禽に携わろう」という発想は出てこない。

新しい学問の分野としての「保全医学」における第一人者である先生の一層のご活躍をお祈りします。

『 第18回　滝野の自然に親しむ集い 』 のお知らせ

例年、好評の『滝野の集い』の日程が下記のように決りました
子供たちやその家族とともに自然のなかで楽しくすごしませんか。
経験や自信がなくてもみんなで助け合います。
多くの指導員の方々のご参加・ご協力をお願いいたします

日　　程	8月11日(土)　12日(日)
場　　所	滝野自然学園とその周辺
内　　容	せせらぎウォッチング 野外炊飯 ナイトウォーキング 自然ハイキング他
下　　見	6月16日(土)・・自然学園周辺 7月21日(土)・・自然ハイキングコース下見 8月 5日(日)・・最終打合せ
集合場所	いずれも地下鉄自衛隊前駅の裏口　9:00集合 そこから車に便乗して現地に向かいます。
担　　当	畑中　嘉輔　TEL・Fax 011-581-5439 佐藤　勝　　TEL・Fax 011-771-0536

自然環境と廃棄物

第４回　ビワの実に思う

NPO 法人　北のごみ総合研究所
代表理事　神山　桂一

出張や旅行に出かけても、私はあまりみやげ物を買って帰ることはしない。若い頃はそもそも小遣いもそんなに持っては行かなかったし、出張旅費は良くても実費を支給されるだけ、多くの場合は自腹を切って出かけるのが当たり前だったので、珍しい物が売られていても買うことができなかったからである。すこし経済的に楽になった頃は時たま何かを買って帰っても、家のものに喜ばれることは少なく、時には「こんな物を買ってきて」と家内に文句を言われたり、本当に珍しいものであると大部分は近所に配ってしまい、家族がそれを楽しむことがめったにない。そんなことが何回か続くとみやげ物を買う気持ちも弱くなってしまった。海外旅行をした時でもこれは同じで、帰途のカバンは多くの方々のように大きく膨らんでいることはなかった。

そんな私だが或る年の初夏の頃、研究発表会の帰りではなかったかと思うが、羽田空港で千歳行きの飛行機を待っている間にのぞいてみた店に九州産のビワが箱詰めで並べてあった。今でもそうだが北海道ではビワは育たないし、店頭に並ぶことはほとんどなかった。高価だし道内の人はそんなにビワを食べようと思わなかったのか、売れないから店でもあまり並べておかなかったのだろう。空港の店に並んでいたビワは子供の頃食べたものよりずっと大きな実でおいしそうに見えた。我が家の子供たちにもビワを食べさせたことがなかったのではないかと思いつき、つい一箱買ってしまった。６個しか入っていなかったので、子供たちには２個づつ、大人は１個でもいいかと思って小さなその箱をカバンに入れて持ち帰った。このお土産は思いがけず子供たちに喜ばれた。果肉の中のツヤツヤした大きな種子も珍しく、息子は「これを植えておいたらビワがなるのかな」と言いながら室内のゴムの木の植木鉢にその種を一粒埋めた。

そんなことは忘れてしまっていた翌春、ゴムの木の根元に何だか芽が出てきた。ビワが芽を出したのだ。これには家中驚いた。まさか本当に芽が出るとは思っていなかったので…。このビワの芽はそれから大事にされ、別の植木鉢に植え替えられ、冬には暖かい室内に置かれてすくすくと育った。種を埋めた息子は当時まだ小学生だったと思うが、中学・高校・大学と進んで社会人になり、そんなビワのことなどに関心をもたなくなっていたが、私にとっては折角はえてきたこのビワが可愛くなったので、大事にそだてることになってしまった。

それから何年たったのだろう。2004年の春、このビワの木に花が咲いた。枝分かれして上部が三本になっている枝の一つの先端に白い小さな花が群がって咲いた。

ビワの花がいつごろの季節に咲くものなのか忘れてしまっていたが、木の方は室内の暖かさに従って勝手に咲いたようである。そして春になり実が一つだけ枝の先についた。これはひょっとしたら食べられるようになるかもしれないと楽しみにしていたら、実はずんずん大きくなり、たった一つではあるが見事なビワの実になった。黄色く熟してきた頃を見計らってとって食べてみた。確かにあの昔に食べたビワの味がした。中には大きな種子も入っていた。

それから毎年実をつけるようになり、2006年の秋に花も三房になり家内が綿棒で花粉をつけてやったのが効果をあげたのか、それぞれの花房の跡に小さな実が幾つも膨らみ始めた。こうなると大きな実が付いてくれるようにと欲張ってそれぞれの小枝の先端にだけ実を残し、あとは摘んで取り除いた。おかげで二月の中頃には小さいながら本物のビワを口にすることができた。

今年は札幌市周辺の民家で鉢植えのビワに実を付けたという記事が幾つか載っていたのを皆様も目にされたと思う。北海道では露地植えでは無理だとしても、我が家と同じように寒い時期に室内に持ち込んでやればビワも育つので、これからも同じような事例が増えるだろう。こうした現象が地球温暖化の一つの表れではないかとまでは思わないが、ブナの生育北限が少し北になってきたとか、東北地方の南部までしか育たない柿の木が伊達市の町の中で実をつけているのを見ると、そのうちにビワも北海道の野外で育つようになるのではないかと楽しみになる。

札幌へ来て家を持つようになってから庭木としてビワやクルミをうえるものではないということを聞かされた。葉が茂りすぎて庭の日当たりが悪くなり、家族に病人が出るとか、他の植物の生育の妨げになるからという理由とともに、もう一つは子供が登って危ないからだという。確かにビワの木は枝が折れ易い。私が子供の頃に登っていた木はそんなに折れ易いとは思わなかった。体重がまだ軽かったから良かったのか、あるいは上手に登っていたからかもしれない。いずれにしても私にとってもっとも身近な木がビワであったし、肌のふれあいの多かった木がビワであったことをいつもはただ捨てられているビワの種子が思い出させた。（2007年5月20日）

2006年度全道研修会Ⅱ報告

テ ー マ　ガンカモティーチャーズガイド講習会
実 施 日　2007年3月24日　土　13:00　　25日　日　12:30
場　　所　ウトナイ湖サンクチュアリネイチャーセンター
講　　師　原田修氏　ウトナイ湖サンクチュアリチーフレンジャー
　　池田茜氏　ウトナイ湖サンクチュアリレンジャー
参加人数　18名　会員13名、会員外6名

日本野鳥の会の協力を得て「水辺の身近な野鳥であり、初心者でも比較的観察が容易なガンカモ類を素材に、おもに子どもを対象として屋内と野外で体験学習を行うためにまとめた指導者向けのプログラム」である「ガンカモティーチャーズガイド」を研修会のテーマとして実施しました。

講習は2日間にわたり、講義や観察、プログラム体験、グループによるプログラム実施体験など多様なメニューをこなしました。

マガンのねぐら入り、ねぐら発も間近に観察することができ、充実した全道研修会になりました。

なお日本野鳥の会ウトナイ湖サンクチュアリネイチャーセンターには、会場の提供、講習内容について全面的な協力をいただきました。　大表　章二

（概　要）

講　　義

導入として原田レンジャーから15分間の講義がありました。

なぜガンカモなのか

ガンカモ類は、ほぼ全国各地の海辺から平地の水辺に分布しており、体も大きく子どもでも観察のしやすいグループあること。そして食べ物やその採り方、また特に雄の羽色が多様性に富んでいて、野鳥の持つ環境への適応やすみ分け、他の生物とのつながりなどの観察・学習を通じて、自然環境の保全や人と自然との共生について関心を深めるための絶好の素材であることなどから、ガンカモを取り上げたことが説明されました。

ガンカモとはどんな鳥か　ガンカモの特徴

①長い首や平べったいくちばし、短くて水かきのついた足など、水辺で餌をとったり、移動したりするのに都合よくできている。
②体の色が雌雄同色のものとちがうものとがあり、繁殖の相手を毎年変えるか変えないかで決まっていると考えられる。
③群れをつくっているのは、猛禽類に狙われたときに、自分が襲われる確率を下げたり、敵の発見にいち早く気づいたり、いい餌場を見つけた仲間についていくことで、餌にありつくことができる。
④多くのガンカモは、冬にシベリアなどから冬越しのためにやってくる渡り鳥である。

プログラム体験①「カモのしぐさビンゴ」

カモの16のしぐさのイラストが入ったビンゴシートを使い、制限時間内にいくつのしぐさが観察できるかを競います。カモが様々なしぐさをしていることに気づいてもらったりそれぞれのしぐさの意味を伝えることで、カモの生態を知ってもらうことができます。

はじめにテキストを使って、ねらいや進行についての理解を深めたあと、湖岸に出て実地に体験です。風が強く、観察に適した条件ではありませんでしたが、参加者は熱心にシートとカモを見比べながら取り組みました。

プログラム体験②「実物大のガンカモを作ろう」

3つのグループに分かれて、それぞれオオハクチョウ、マガン、マガモの平面模型図を作成しました。はじめは緊張していた皆さんも、共同作業が進むうちに打ち解けて、冗談なども飛び交い、たいへん協力的に取り組み、完成された図は実物そっくりでした。予想以上に大きいことにみな驚きの声を上げていました。

プログラム実演

実演準備　3つのプログラム（フードチェーン、カモのパズル、水辺のいきもの・私はだあれ？）のグループ分けを行い、準備に入りました。各グループはまずテキストを読み合わせてプログラムを理解することからはじめました。そして役割の分担や対象年齢にあわせた工夫を行いました。

実演　　3つのグループは、それぞれ約30分間みんなの前に出てパネルやカードなどを使いながらプログラムを実演しました。鋭い質問に詰まったりしながらも、みな一生懸命に自分の役割をはたしました。

実演後のふりかえり　　各グループごとに、レンジャーからのコメントをもらいました。また他のグループから「良かった点」「改善点」を書いてもらいました。

最後に

原田レンジャーから、ガンカモティーチャーズガイドの活用に関する提案があり、質疑応答、認定証授与などのセレモニーを行って、2日間の講習を終了しました。

ねぐら入り、ねぐら発ち観察

1日目の夕刻5時半ごろからねぐら入りを、翌2日目の早朝5時30分ごろよりねぐら発ちを観察しました。ねぐら入りは、原田レンジャーの説明つきでした。今年は暖冬の影響で、渡りが早まる傾向にあり、観察できるか危ぶまれましたが杞憂におわり、大きな群れのねぐら入り、ねぐら発ちを見ることができました。

カモのしぐさとその意味

カモのしぐさとその意味について紹介します。原田レンジャーからテキストに沿って解説されたものです。全部で16のしぐさが説明されていますが、その中から5つのしぐさを紹介します。

・エサを食べている　　マガモやカルガモなどのカモは、水面や水中の餌を濾し取って食べる。その時、くちばしを水につけて移動しながら餌を探す。双眼鏡で観察するとくちばしの横から水が流れ出ていくのが見える。

・頭と尾をそらしている　　雄が雌に対して行なう求愛のディスプレイの一部分。ディスプレイの終盤、雄は頭と尾を近づけるような動作をする。

・飛んできて水におりる　　飛んでいたカモが水に降りるときには、首と両足を前に出して降りてきて、両足で水面を滑るようにして着水する。

・水あび　　羽毛に付いた汚れを取り除いたりするため、水浴びをすること。首で背中に水をかけ、その後翼で水を叩くようにして水を浴びる。喧嘩やタカに襲われた後などにもよく水浴びをする。

・はばたく　　水浴びが終わるとその場で羽ばたいて翼の水を切り、最後に尾を振って尾の水を切る。水浴びの後に必ず見られる行動。

フィールドニュース　Field News

'07春の出会い

手稲区　三浦 美惠子

3月8日　夕方帰宅途中の隣のおじさんが今、大きな鹿が裏を通って行ったという。交通事故に遭わないで山に戻れるといいねと話す。

3月10日　玄関のチャイムが鳴る。近所の方が、「朝3時頃めったに吠えない犬が吠え続けていたので、起きてから見ると怪我をした大きな鹿が庭にうずくまっている」という。

　交番に電話、区役所の職員も駆けつける。鹿は動かない。骨折した骨が見えている。いざ捕獲しようとすると鹿は三本足で左後足をぶらさげたまま、住宅街を疾走。恐怖と痛みでどんなにか苦しいことだろうと胸を痛めながら私も後を追う。

　速い。なんと速い。人や車に遭遇しないようにと願いながら追う。幸いに狭い柵と柵の間に逃げ込み動けなくなる。間もなく動物園の職員もトラックにて来て引き上げられ保護された。獣医さんは「体重80kg位、2才でしょう」との話。鹿はその後どうなったのか…。

3月16日　夕方 JR にて小樽からの帰途、張碓海岸に眼をやる。たくさんの海鳥　わあっ！大きな猛禽類が海鳥を捕らえ飛び立った。オオワシ？　オジロワシ？

3月19日　居間でくつろいでいる母が今、ヒヨドリより大きい茶色の鳥が歩いて行ったという。長さ5cm 程の足跡が玄関前にも、そして裏手へとずっと続いている。

3月24日　玄関を出て、ふと足元を見ると19日にもあった鳥の足跡がまたずっと続いている。エゾライチョウか？

4月8日　いつものフィールドへ水芭蕉、エゾアカガエルの観察にと空缶等を集めながら上がって行くと前方に黒い固まりが見える。なにかなと不審に思いつつゆっくり進む。ウン？！双眼鏡を覗く。その物体はゆっくりと動きだした。熊さんだ。今11時30分。2、3日後に隣のおじさんにその話をすると4月1日13時過ぎに少し下で見たという。

4月24日　真駒内公園を歩いていると異臭が漂ってくる。どうもカメムシの臭い。落ち葉をめくる。無数の虫、虫。多数体にもつく。数メートル歩くと又、その臭い。ナガカメムシの仲間のようだ。カメムシ同士のコミュニケーションに私はしばらくの間気分が悪くなった。周りは早春の清々しい空気なのに。

次の出会いは……。

いまどき旭川市では・・
公園中心部に2haのパークゴルフ場？

旭川市　伊東　勲

＜はじめに＞

旭川市の北東部鷹栖町との境の丘陵地に市内で最大(42.8ha)の自然豊かな春光台公園があります。その中心部に18ホールのパークゴルフ場(PG 場)を造る…と聞いたのは、04年8月末のこと、05年度から公園の整備工事を始めるというものでした。

旭川・森と川ネット21(森と川ネット)という環境保護団体に係わっていた私は、地球温暖化が問題のいま、公園の木を伐って PG 場とは何事かと考えたのがきっかけで、その後2年余にわたり市公園みどり課との交渉や、署名活動などこの問題に開け暮れていました。

＜公園で土木工事…＞

10年ほど前地元の市民委員会(町内会連合会)から PG 場整備の要望が出されたことに端を発し、市が国の補助金による「公園整備計画」に取り込んで具体化しました。予算総額は6億3千万円。市の一般財源8千万円、借金が2.5億円です。。

市の長期計画の中では「春光台公園は、自然生態系の保全と活用を両立させていくべき場所」と位置づけられていました。計画にはこの方針が大義名分として掲げられていますが、工事内容は利・活用一辺倒でした。国の補助金の対象は基盤整備のみで、自然環境保全に係わる工事は対象外だからです。

＜羊頭狗肉＞

春光台公園は、私宅から歩いて30分のところにあり、ミズナラや白樺他の雑木林が広がり、早春にはミズバショウが咲き誇り、秋には紅葉、冬は歩くスキーのコースとして市民に親しまれています。また、静かなキャンプ場や旭川で唯一の本格的なアスレチック施設があります。

市は公園の樹木を伐り、花見などで市民に親しまれている広場や、子どもの遊び場をつぶし、アスレチック施設を狭い敷地に押し込めるなどして確保した2ha の用地に、PG 場を計画しました。

市が設置した「春光台公園を考える懇話会(自然保護関係者・市民委員会・公募委員など12名)」では、自然に親しめる公園づくり、公園の緑の大切さ、PG 場造成、ミズバショウの保全、道道横断の人道橋など、様々な意見が出されました。市はそれらの意見の中から、都合がいいものだけをピックアップして実施計画としてまとめ、懇話会が承認した計画だとして正当化しました。

＜市民参加の建前と本音＞

森と川ネットは、計画を進めるにあたり、公園利用者や一般市民を含めた検討会を作るよう何度も要請しました。

それに対して市は、地域の市民委員会の推薦(PG 場賛成者)14名に、公募委員6名を追加するとしました。募集の結果は、応募者がゼロでした。

PG 場問題は、06年9月末の市議会で取り上げられ、市民に対する説明責任・合意形成を軽視した事業の進めかたを追求されましたが、「市の対応に一部不十分な点があるかもしれませんが、一定の手続きを踏んで進めてきているので、計画どうり進めたい」と強引に押し切り、計画を一部手直しして、07年4月から春光台公園の一等地に、1.4 ha の PG 場工事が始まりました。

＜自然保護は、市民の仕事＞

PG 場を中止させることは出来ませんでしたが、2年余にわたる旭川市との粘り強い話し合いと署名活動などの市民の協力を得て、子供たちの遊び場やアスレチック施設などを守り、人道橋・エコブリッジ・園路の舗装など無駄な工事を中止させることが出来ました。

また、計画にはなかった「ミズバショウの保全・復元検討会」を実現しました。そのなかで自主的に参加した市民がミズバショウの再生に向けて具体的な活動を展開していることは、大きな成果だと考えています。

市民が市政の動きに眼を光らせていないと気がついたときには遅すぎた…ということになりかねません。

＜おわりに＞

バブル経済がはじけて以来、企業のレジャー開発による自然破壊が影を潜めましたが、一方で、国や地方自治体による自然破壊と、税金の無駄遣いが一体となって行われています。腹立たしいことに行政は、「地域住民の要望」や官製の「懇話会」を隠れ蓑に、時には意識的に住民同士を対立させる手法を使って、道理のない事業を推進しています。こうした行政との対応も、自然観察会と同様重要な自然を守る活動の一環と考えています。

それにしても、開墾した農地（356.5ha）を買収し、数十年かけて取り組むという「帯広の森づくり」計画と比べて、何と言う発想の貧困さであろうか…。市当局と市民のまちづくりに対する意識のレベル差を痛感しているところです。

ウォッチングレポート

白老町 萩の里自然公園 '07年 2月 4日

参加者 7名　指導員 4名 晴

＜冬芽と動物の足跡探し＞

指導員と萩の里自然公園の紹介をし、コースと時間を説明して早速観察会を始めた。

下見で観察ポイントをチェックしていたが　その日にならないとわからないのが自然だと思い知らされる。　折角見つけたエゾリスの足跡は消えてしまい。此処にあったのだとの説明が出来なく用意した写真で納得してもらう。

年々動物の生態系が変わってきた感じだ。エゾリスの巣を探すにも苦労する。エゾシカも見られなくなってきた。タヌキ、キツネも前に来た時には見られたのにと聞かれる。

参加者から、犬を連れて散歩に来る人が増えたから、いや、アライグマの影響ではとの声も聞かれ意見交換をしていたら観察時間がなくなってしまった。いつもの顔ぶれや初めて参加された方から楽しかった参考になったといわれてホッとした観察会でした。

(新岡 幸一 記)

南区 真駒内公園 '07年 3月18日

参加者 7名　指導員 2名 曇

＜春の息吹を感じとろう　ゲームとアイスクリーム作り＞

2月になっても雪が少なく観察会実施が危ぶまれ、広報を自粛しましたが、3月中旬頃には連続の雪の日となり、参加申し込みもあり実施しました。

水・雲・雪の親戚関係や、水の旅の話から自然の仕組みを考えました。雪を利用したアイスクリーム作りでは、雪の温度よりも低い温度を体感しました。ペットボトルを使った雲作りは、ペットボトルの中が白くなるのだけを楽しんでしまいました。小学校低学年では高い山の気候を経験していないので「わけ」を考えられないようでしたが、大人が真剣に聞いてくれました。

川面を見ているとキタキツネが対岸に見えるヤドリギの下を駆け抜けて行きました。人間の住みやすい場所がたくさんあるとキツネは生きていけないと話合いました。

聴診器でいろいろの音を聞きました。風の音・心臓の音は聞こえましたが、木の水を吸い上げる音は誰も聞き取れませんでした。「よい耳をしているね。」と水を吸い上げる速さは音が出るほど早くないことに触れて終わりました。

(須田　節 記)

千歳市 根志越排水路周辺 '07年 3月25日

参加者11名　指導員 5名 小雨

＜ヒシクイを送る　北帰行のヒシクイ観察とゴミ拾い＞

下見は当日の早朝実施。ヒシクイとハクチョウは既にねぐら立ちして排水路から近くの田畑に舞い降りていた。数はここ数年で最も多く見られる。排水路にはオナガガモが群れで残っていた。

参加者に鳥が田畑にいることを双眼鏡、フィールドスコープで見てもらったが、細かい動きまでは見ることができなかった。そのうちに一斉に飛び立つ光景が見られることを伝え、飛び立つのを待っている間にフィールドビンゴ、ヒシクイクイズなどで鳥の生活や自然観察のポイントを伝えた。

観察会が始まって１時間ほど経過した頃、目の前でヒシクイが一斉に飛び立ち皆さんに喜んでもらえた。

鳥の観察の後ゴミ拾い、雪の中に隠れて捨てられていたゴミが沢山！小型トラックの荷台がすぐにいっぱいになる程のゴミが集められた。付近が綺麗に片付いたところで観察会を終了した。

(明野 幸久 記)

苫小牧市 錦大沼総合公園 '07年 3月25日

参加者 7名　指導員 6名 小雨 道新、朝日、読売、毎日、民報

＜冬の錦大沼　野鳥と林＞

前日からの雨が、当日も止まず、中止か決行かの判断が難しい状態だった。開催時間が近づくにつれ、ようやく小降りになり決行を決断した。

雨降りのせいか野鳥の数が少なく、野鳥と出会うまで樹木の冬芽や花芽、木肌で見分ける樹木の特徴を解説。そうこうしている内にアカゲラ、コゲラ、ハシブトガラ、シジュウカラ、エナガなど12種を観察。天候が悪いなりに当初計画した目的を達成し12時に終了した。

参加人数が少なく寂しい気もしたが、少人数でジックリ、ゆったりと観察でき良かったとの感想が得られ、また、観察会の回数を増やして欲しい旨の要望があった。　(佐藤 幸典 記)

北区 百合が原公園 '07年 4月22日

参加者20名　指導員 3名 快晴　北区「ふれあいわがまち」

＜都市の中の造成公園「百合が原公園」
北方系の花と鳥たち＞

牧場や野菜畑から造成された公園は28年が経ちました。百合が原公園管理事務所の方から、昆虫と野鳥のリスト一覧、百合が原公園開花ごよみ・初期造成中の公園写真など、資料と説明を事前に受けて観察会を実施しました。

札幌市の「緑のリサイクル事業」が始まり、植

物の遺体はその性質などから堆肥・マルチ・用土に分け再利用して、化学肥料や農薬を控えて土力をつけた結果、昆虫リストがおよそ250種同定され、鳥も来るようになりました。

今日の観察会でもアカゲラ、アカハラ、アトリ、カワラヒワ、キジバト、コガモ、シジュウカラ、トビ、ハシブトガラ、ハシブトガラス、ヒガラ、ヒヨドリ、マヒワ、モズなどが観察できました。

北方高山系の早春の花々を見ながら、本来は見られない場所にいて植物を楽しむことの是非も考えされられました。造成された公園も時間と人の知恵で、里山的自然豊かな公園になっていくことを体感しました。　(須田　節 記)

伊達市 善光寺自然公園　'07年 4月28日

参加者21名　指導員 2名 快晴　道新、室蘭民報、伊達新報

＜自然、歴史と文化、サクラの織りなす早春＞

快晴に恵まれ、早咲きの桜、イツカヤマが開花しました。カタクリ・コジマエンレイソウ・アズマイチゲ・キクザキイチゲ・エゾエンゴサク・キバナノアマナなどの群落も見頃となった中で、ウグイス・カケス・ヒガラ・コガラ・シジュウカラ・カワラヒワの警戒を告げるところからスタートしました。

実はこの観察会は、ここにパークゴルフ場（27ホール）が建設されることへの危機感から設定され、8千年前に有珠山が崩れ、堆積した巨岩と樹木が織りなす〝奇跡〟を見ることが目的でした。

巨岩に凛と立つ巨木のミズナラの成長過程やサクラの健康度チェックなど、案内人を買って出た樹木医、学芸員の話に真剣に耳を傾けました。

この日は、地元自然系団体も観察会を開催していて、コースの中間で合流し、エールの交換が百名以上で行われました。

今、「建設中止」の世論に傾きつつあり、いっそうの努力が必要と思います。

(安藤　忍 記)

中央区 道庁･北大付属植物園 '07年 4月29日

参加者42名　指導員12名 晴

＜園内の早春の足音＞

祝日法の改正で今年から「みどりの日」が5月4日に代ったため、植物園の入園費がかかってしまい、参加者の皆さんにはご負担をかけてしまいました。

入園時、料金の徴収に、多少時間をとられましたが、大きな混乱も無く無事観察会を開催することが出来ました。

今年は、雪融けが早かったわりに、四月に入っても気温の低い日が続き、こんなに寒くて花は咲いているのだろうかと心配しましたが、キバナノアマナ、エゾエンゴサク、アズマイチゲなど、ほぼ例年並みに咲いていてまずは一安心。

この春一番の好天にも恵まれ、気温も上がり、まさに観察会日より。

下見からたくさん指導員の方が参加してくれて、和やかな雰囲気の中、無事観察会を終えることが出来ました。　(山形 誠一 記)

北見市 たんのカタクリの森 '07年 5月3～7日

参加者107名 指導員 4名 晴道新、読売、経済の伝書鳩、広報北見

＜分布東限近くのカタクリ＞

入林を制限している群生地への観察会です。保護と移動の関係から1回の参加人数を限定して募集しました。3･4･5･7日午前・午後の予定が何故か4日の午後のみ1名で、他に廻ってもらい中止、7回の実施となりました。

前半3日間は上天気、最後の7日は曇でした。遠くは根室、釧路、標津からの参加もありました。

集合場所の図書館で、端野のカタクリの特徴や東限近くで孤立した群落であり、大切にしていかなければいけないことを理解してもらってから現地の観察です。

昨年の台風や大雨で崩落した林道を沢周りで迂回、カラマツ等の倒木の多さに驚きながら群生地へ。

糸のような実生や1cm ほどの2年生（葉）は、初めて見る人がほとんどで、花に気をとられると踏んでしまうことを解ってもらえたようです。

カタクリは落葉広葉樹林でしか見られず、隣にあるトドマツ林やカラマツ林には全くないことにも感心していました。

咲いていた花は、カタクリ、ナニワズ、アズマイチゲ、ツルネコノメソウ、エゾエンゴサク、キタミフクジュソウ、フクジュソウ、アキタブキ。

期間中に咲き出した花は、　ニリンソウ、キタコブシ、バッコヤナギ、タチツボスミレ、アイヌタチツボスミレ、エンレイソウ。

(竹林 正昭 記)

小樽市 旭展望台周辺　'07年 5月 6日

参加者29名　指導員7名 晴　道新(2回)、広報おたる

＜カタクリ･エンレイソウなどの早春の草花たち＞

下見会は4月28日に実施し、6名が参加しました。2年続けてカタクリは雪の下だったので今年は一週間ほど実施日を遅らせたのですが、こんどは雪が少なくて花の時期が終わってしまうのではないかと気がもめました。が、天候に恵まれ運良くカタクリの満開の時期にぶつかりました。

充分な時間を掛けて資料を使い、ユリ科（エンレイソウ、オオウバユリ、カタクリなど）のライフサイクルの説明をしましたが、これが新鮮であったようです。その他多くの生物との出会いもあって参加者の皆さんの満足をいただくとともに、自然に対する新たな観点が作られたのではないかと思います。　(大嶋 正紀 記)

中央区 円山公園　'07年 5月 6日

参加者25名　指導員6名 晴

＜春に咲く植物＞

ゴールデンウィークの最終日、汗ばむほどの陽気に、サクラも見頃を迎え、絶好の観察会日和。

花見客の賑わいを横目に、坂下グランド周辺から大師堂と、円山の山すそを回って観察を行いました。

モクレン科のキタコブシやキンポウゲ科のニリンソウなどの古い造りの花からユリ科やスミレ科など、安定した作りの花への進化など、一つ一つの花を丁寧に観察。咲いていた花の種類はあまり多くは無かったけれど、それなりに充実した2時間でした。　(山形 誠一 記)

手稲区 手稲本町市民の森　'07年 5月13日

参加者12名 指導員3名 曇/雨　道新、読売、NHKTVほっからんど

＜春の手稲山　春植物を探そう＞

曇り空の中で出発。今回はアップダウンのあるルートに変更したので適度なコースとなりました。

見頃の野草は、オオタチツボスミレ、ニリンソウ、シラネアオイ、エンレイソウ、ネコノメソウなどの春植物の花芽・芽吹きが観察できました。

樹木では、オオカメノキの花は満開でひときわ存在感があり、ハウチワカエデ、イタヤカエデの花芽など感激!

途中から雨がポツポツ落ちてきて傘をさしながらの観察会になり、3年連続の雨となりましたが、十分参加者の期待に応えることが出来たように感じられました。

今後は、少しずつ「手稲本町市民の森」全体を通した観察会にしていきたいと考えています。

(高田 敏文 記)

岩見沢市 利根別自然休養林　'07年 5月13日

参加者 2名 指導員 4名 曇/雨

＜春の野草観察会＞

天気予報に反して、後半は雨になってしまった。まだ花は咲き揃ってはいないが、できれば少しでも多くの花が見られたらと思いましたが、皆様の感想は？

花は付いていないが、何という植物になるのかを皆で推測する。中々楽しいパズルであった。

春の紅葉を堪能しながら、花芽を見て、これは何、あれは何と、スコープに入れながら、段々と覚えていく。レンプクソウを初めて見られて、私としては大満足でした。

最後に、カルガモの部分白化と思われるのが見られた。次回は子供や孫を連れて来て欲しいものだ。　(佐藤 幸典 記)

参　加　者　の　声

苫小牧市 錦大沼総合公園　('07/ 3/25)

白石区　玉置 富士夫

朝日新聞を見て初めて参加しました。9時から雨があがるという天気予報を信じて、札幌を出ました。しかし、錦大沼公園に着いた時も小雨、中止でないかと心配しましたが大丈夫でした。

樹上の枯れ枝についた茸から、観察会が始まったが、そんな場所に茸を発見したのに驚きました。又樹木の花芽や樹皮の特徴も確認でき、楽しい時間になりました。

林の中で活動するアカゲラやカラ類の野鳥から、小川のワカサギまで、春の動物達の動きも観察できました。エゾシカが冬季間にツリバナの木の樹皮を選んで食べた痕跡の多さにも驚かされました。

同行していただいた専門家の方々のお話は茸・樹木・野鳥・野草と多岐に渡り、興味深いものでした。特に、ミヤコザサ、スズザサ、クマザサ、チシマザサと積雪の深さにより植生が変わることや、沼の中のヨシの進出、次にハンノキが進出し、そしてヤチダモが進出していくことが観察できました。生物は環境によって住み分けているのがおもしろかった。

今回のような、緑の少ない、花の咲いてない季節も、いろいろなことが見られました。錦大沼の四季折々の変化をこれからも観察していきたいと思っています。

伊達市 善光寺自然公園　('07/ 4/29)

伊達市　弘本 セツ子

4月28日有珠善光寺公園の観察会はまるで五月晴れのような良い天気に恵まれ、沢山の人々が参加してました。

今芽吹きはじめたばかりの木々がいかにも楽しげにゆれ、また足元には色とりどりの小さな草花が咲き乱れ、一歩踏み出すにもためらいが感じられました。何千年も前の有珠山噴火の際の岩なだれの岩が大小あちこちにあり、その岩の上には木や植物が育っています。何百年もの樹齢の木々、二百年ともいわれる石割桜も、千本程もある桜と同時に咲く事と思います。どんなに美しいことでしょう。

この様な公園にパークゴルフ場を造る！という考えにはどうしてもどうしても賛同は出来ないでおります。一昔前は自然はどこにでもあったもので守るなどと考えることなどは頭の中にはありませんでした。しかしこれからは「守る」ということをしっかり考えていかなければならないと強く感じた観察会でした。

ウォッチングプラン

2007年度　観　察　会（'06年1月10日～'07年9月9日）

※下見の日時は連絡先指導員に確認してください。

年月日	テーマ	観察地	集合場所・時刻	交通機関	下見	連絡先
6月17日(日)	「月ヶ湖」観察会 初夏の植物観察会	月形町 月ヶ湖	9：00集合～12：00解散 花や樹の図鑑がある方は持参 雨の場合は長靴など雨具必携	公共交通機関はありません。 自家用車の方は集合場所のお知らせがありますので、連絡をお願いします。		佐藤幸典 0126-23-4415
6月17日(日)	もっと藻岩山 藻岩山散策(旭山記念公園～慈恵会)	札幌市中央区～南区 藻岩山	旭山記念公園駐車場 10:00集合～14:00 慈恵会駐車場で解散　昼食持参	地下鉄東西線 円山公園バスターミナル発，JRバス「旭山記念公園」行き	原則 1週前	山形誠一 011-551-5481
6月30日(土)	初夏のカタクリの森 カタクリの実と初夏の花たち 共催たんのカタクリと森の会	北見市 たんのカタクリの森	北見市立端野図書館前 9：45集合～12：00解散 沢歩きあり要長靴	北見バスターミナル 9：20発「美幌津別線」乗車 「屯田の杜公園」下車		竹林正昭 0157-56-3357
7月8日(日)	「平岡公園」観察会 はらっぱに造った湿原の変わる様子を観察する	札幌市清田区 平岡公園	平岡公園第一駐車場 (厚別中央通沿い) 10:30集合～13:30解散　昼食持参	地下鉄東西線 大谷地駅発中央バス「大66」ジャスコ平岡店行 ・平岡5条3丁目下車 (前方左の緑地歩道を200m，徒歩5分)	7月8日 (日) 9:00～	佐藤佑一 011-881-5336
7月15日(日)	「真駒内川」観察会 (親子・子供特集) 川で遊ぼう	札幌市南区 真駒内公園	札幌市豊平川サケ科学館前の広場 9:30集合～12:00解散 川に入るための古い運動靴を用意	地下鉄南北線 真駒内駅から 定鉄バス 「南90」,「南95～98」 乗車 「真駒内競技場前」下車	7月8日 (日) 10:00～	澤田久美子 011-891-1962
7月22日(日)	「オタモイ海岸」観察会 バシクルモンやクルマユリなどの海岸生物	小樽市 オタモイ海岸	中央バス「オタモイ団地」バス停 9:00集合～12:00解散	小樽駅前国際ホテル向いから 中央バス「オタモイ入口」行き乗車， 「オタモイ団地」下車		本間正一 0134-23-9374
7月22日(日)	「夏の円山公園」観察会 円山登山	札幌市中央区 円山公園	地下鉄東西線円山公園駅 １階バス待合所 9:00集合～12:00解散	地下鉄東西線円山公園駅下車	原則 1週前	山形誠一 011-551-5481
8月11日(土) ～12日(日)	「第18回滝野の自然に親しむ集い」 親子1泊2日観察会 夏休み野外学習 (親子・子供特集)	札幌市南区 滝野自然学園	一般申込方法，締切など詳細は未定 決まり次第，新聞，広報誌などで下見、地下鉄自衛隊前駅の裏口 9:00集合車便乗で学園へ	地下鉄真駒内頭より中央バス「滝野公園」行き「アシリベツの滝」下車徒歩3分	6/16(土) 7/21(土) 8/5(日) 9:00～	畑中嘉輔 011-581-5439 佐藤勝 011-771-0536
8月19日(日)	「夏の手稲山」観察会 山頂までゆっくり山歩	札幌市手稲区 「山麓駅～山頂」往復	「ロープウェイ山麓駅」前10：00集合～16：00解散 昼食,飲み物持参,※雨天中止	JR手稲駅南口発JRバス手稲山ロープウェイ線 「ロープウェイ」バス停下車	8月18日 (土) 10:00～	高田敏文 011-684-0989
8月26日(日)	「盛夏の錦大沼」観察会 冬に向かっての準備	苫小牧市 錦大沼総合公園	錦大沼総合公園駐車場 8:50集合～14：00解散 雨天原則決行、強風日中止	自家用車のみ あれば双眼鏡・ルーペ・図鑑など持参 昼食持参	8月25日 (土) 9:00～	佐々木昌治 0144-67-2022
9月1日(土)	「秋の紋別岳」観察会 秋の花	千歳市 支笏湖外輪 紋別岳（864m）	中央バス支笏湖湖畔バス停前 9:40集合～15:30解散予定 支笏湖観光ホテル入浴料実費負担(500円) 登山靴不要、昼食持参	ＪＲ札幌駅7：52発「千歳行き」 8：21千歳駅着千歳駅前中央バス8：50発「支笏湖畔行き」支笏湖湖畔下車 有料駐車場有	8月25日 (土) 9:40～	谷口勇五郎 0144-73-8912 今野善行 0123-23-5672
9月9日(日)	「平岡公園」観察会 はらっぱに造った湿原の変わる様子を観察する	札幌市清田区 平岡公園	平岡公園第一駐車場(厚別中央通沿い) 10:30集合～13:30解散、昼食持参	地下鉄東西線 大谷地駅発中央バス「大66」ジャスコ平岡店行 ・平岡5条3丁目下車 (前方左の緑地歩道を200m，徒歩5分)	9月9日 (日) 9:00～	佐藤佑一 011-881-5336

2007年度　　研修会他

年月日	テーマ	観察地	集合場所・日程	交通機関	講師	連絡先
6月24日(日)	地方研修会　1 旭川の自然を見よう	旭川市 春光台公園	春光台公園管理棟前 9:30受付～14:30解散 申込 〆切6/17、はがき・Faxで	道北バス 旭川駅前乗り場3番 路線29、8:50発　路線30、9:10発 車 鷹栖ICから10分	菰田雅樹 加藤智子　他	伊藤勲 0166-52-8494
8月24日(日)	地方研修会　2 札幌に生きる水生昆虫（トンボ）の生態を通して水環境を考える	札幌市 西岡公園	西岡公園管理事務所前 9:30受付～15:00解散 申込 〆切8/18、はがき・Faxで	地下鉄南北線「澄川駅」中央バス西岡環状線[澄73]乗車，「西岡水源池」 地下鉄東豊線「月寒中央駅」中央バス西岡月寒線[月82]乗車、「西岡4条14丁目」	横山　透 (日本蜻蛉学会・北海道トンボ研究会)	大表章二 0136-57-5610
9月15日(土) ～ 16日(日)	全道研修会 サクラマスの遡上を観察しサンルダムの影響を考えよう	下川町 なよろ温泉サンピラー サンル川	なよろ温泉サンピラー 15日13:00受付～16日12:00解散 宿泊　なよろ温泉サンピラー 申込 8/1～8/30、はがき・Faxで	会場行き無料専用バス 名寄駅前発12:40 JR時刻は同封案内参照 乗用車は直接会場へ	前川光司 (北海道大学教授)	松本昇 01654-3-4084

☆各研修会の詳細については、同封の案内（会報82号・83号）をご覧ください。

☆ 会員の清水和男さんから山歩集団青い山脈の自然観察会の予定が届いています。参加の時は事前に確認をしてください。

年月日	テーマ	観察地	集合場所・時刻	交通機関	下見	連絡先
6月30日(日)	海岸観察会 ウミミドリ、塩湿植物群	松前町 建石海岸(折戸～弁天)	松前町建石ローソン駐車場 9:00集合			清水和男 0139-47-2525
7月8日(日)	清部・笹山観察会 南限トドマツ、笹山山域植生	松前町 小鴨津川水系トドマツ南限地	松前町小鴨津河口部 9:00集合			清水和男 0139-47-2525
9月17日(月)祝	秋の自然観察 野鳥・草花調査、ネコハギ他	松前町 白神岬・天狗山・白神岳	白神岬展望駐車場 9:00集合			清水和男 0139-47-2525

【 事務局だより 】

☆ 2007年4月14日札幌市環境プラザにて2007年度総会、猛禽類医学研究所・齊藤慶輔獣医師による講演会「猛禽を守る！最前線レポート」ー猛禽類保護の保全医学的取り組みーが開催されました。

☆ 2006年11月25日会則原案作成チームで検討して改定案を作成し、理事会に諮ったのち、会則改定案として総会で会員の皆様のご意見を伺いました。
会の現状に沿った改定案でしたので賛同をいただきました。会報に載せられている北海道観察協議会会則をお読みくださいますよう、お願いいたします。

☆ 観察会実施中に軽症の事故が5月に発生しております。観察会実施前に注意喚起をお願いいたします。
応急処置、負傷者氏名確認や病院搬送などの配慮をお願いいたします。事故発生の時は事務局へ連絡をお願いいたします。

☆ 観察会の報告をホームページに掲載しております。観察会の様子や出会った植物・動物の写真も一緒に載せております。各観察会2～3枚でも印象が違いますのでぜひ、お寄せください。
E-mail　hzx01204@nifty.com　へお願いします。

自然観察指導員講習会について

2007年自然観察指導員講習会が実施されます。
私たちの仲間を増やすために自然に関心のある方々に受講をお薦めください。
お知り合いの方や観察会の折などにご説明を願えればと思います。

2007年自然観察指導員講習会
日本自然保護協会・酪農学園大学共催
日　　時：　'07年9月28日（金）～30日（日）
場　　所：　酪農学園大学（江別市文京台）
受付期間：　'07年8月13日～27日（NACS-J）
連絡先・問合せ先：　日本自然保護協会 TEL 03-3553-4105

北海道自然観察協議会のホームページ　http://www.noc-hokkaido.org/

会費や寄付は	郵便振替口座	02710-1-8768	北海道自然観察協議会	
	会　計	畑中　嘉輔	〒062-0033 札幌市豊平区西岡3条13丁目12-13	TEL/Fax 011-581-5439
観察会保険料は	郵便振替口座	2770-9-34461	北海道自然観察協議会観察保険料	
	観察会担当会計	引地　輝代子	〒002-8022 札幌市北区篠路2条5丁目8-25	TEL/Fax 011-773-2170
観察会報告書・資料は	観　察　部	山形　誠一	〒064-0946 札幌市中央区双子山1丁目12-14	TEL 011-551-5481 E-mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp
研修会関係は	研　修　部	大表　章二	〒048-1301 磯谷郡蘭越町蘭越町852-23	TEL 0136-57-5610
退会、住所変更の連絡他は **事故発生等緊急時は**	事　務　局	須田　節	〒007-0846 札幌市東区北40条東9丁目1-13	TEL/Fax 011-752-7217　E-mail zan00711@nifty.com
		北海道保険保証	TEL 011-222-0877 （日・祝祭日は休み）	
投稿や原稿は	編　集　部	竹林　正昭	〒099-2103 北見市端野町3区378-3	TEL/Fax 0157-56-3357　E-mail hzx01204@nifty.com

表紙写真　竹林正昭

自然観察：2007年　6月 15日／第83号　　年4回発行
(会員の「自然観察」購読料と郵送料は会費に含まれています)
発　行　北海道自然観察協議会
編　集　北海道自然観察協議会編集部